

2016年 日本史B シラバス

「日本史B」	単位数	4単位	学科	普通科	学年・学級	2学年 3年生	
--------	-----	-----	----	-----	-------	---------	--

1 学習の到達目標

学習の到達目標	1. 我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させる。 2. 我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせる。 3. 歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての資質を養う。
使用教科書・副教材等	東京書籍「新選日本史B」、山川出版社「山川詳説日本史図録」

2 学習指導計画及び評価方法等

学期	月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	備考(学習活動の特記事項, 他教科・総合的な学習時間・特別活動等との関連等)	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用之技能・表現	知識・理解
第1学期	4	●歴史の考察 「資料をよむ」 ※本文末尾にある「歴史の追究」については、5つのテーマから2つ程度を選択して、適当な時期に実施するよう指導計画の中に位置づける	1. 様々な歴史的資料の特性に着目し、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解させる。 2. 雑誌、新聞、絵画、地図、写真、遺物、遺跡など様々なものが歴史的資料となりうることに気づかせる。 3. 資料を比較したり、特色を発見したり、変化を読み取るなど、多面的・多角的な考察を通して歴史的な見方や考え方を身につける。	・導入として実施するので、生徒の親しみやすい具体的な資料を用いて作業的・体験的な学習を行う。 ・「日本史のライブラリー」p.2-3も活用し、様々な資料から歴史を読み解けることに気づかせる。	第1学期中間考查	・資料を読み取る学習を通して歴史への関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・資料を読み取る学習から課題を見出し、多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	・写真や文献・地図などの諸資料を通して歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・資料を読み取る学習を通して、歴史を考察する基本的な方法を理解している。
		第1章 古代国家の形成と古代文化 [1] 原始社会の生活と文化 1 更新世の日本 2 縄文文化	1. 気候や地形、動物相・植生の変化などの自然環境に着目し、人々の食料獲得方法や道具の変遷、呪術的風習、地域的な差異等を理解させる。	・考古学などによる新しい事実の解明によって歴史が書き改められつつあることに留意する。 ・「日本史のライブラリー」の巻頭を活用し、考古学的な発見に関心をもたせる。		・旧石器文化、縄文文化の時代の社会に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・旧石器文化、縄文文化の時代の社会から課題を見出し、大陸文化の影響による生活の変化と関連づけて多面的・多角的に考察している。	・旧石器文化、縄文文化の時代の社会に関する遺物などの資料から歴史的事象の追究方法を身につけ、追究・考察した過程や結果を適切に表現している。	・旧石器文化、縄文文化の時代の社会についての基本的な事柄を生活の変化と関連づけて理解し、その知識を身につけている。
	5	[2] 農耕社会の形成と大陸文化の摂取 1 弥生文化と小国家の形成 2 大和王権と古墳文化	1. 道具や稲作等の大陸文化の影響に着目し、集落立地、食料獲得方法と食生活の変化、富の蓄積、習俗や墓制の推移などの社会の変化を理解させる。 2. 小国の形成から大和王権に至る過程と古墳文化を、東アジア世界との関係に着目して、多面的・多角的にとらえさせる。	・世界史で学ぶ東アジア世界の内容をふまえる。		・弥生文化の時代の社会と大和王権の形成過程から課題を見出し、東アジア世界との交流と関連づけて多面的・多角的に考察している。	・弥生文化の時代の社会と大和王権の形成過程から課題を見出し、東アジア世界との交流と関連づけて多面的・多角的に考察している。	・弥生文化、古墳文化の時代に関する遺物などの資料から歴史的事象の追究方法を身につけ、追究・考察した過程や結果を適切に表現している。	・弥生文化の時代の社会と大和王権、古墳文化についての基本的な事柄を東アジア世界との交流と関連づけて理解し、その知識を身につけている。
	[3] 律令国家の形成と古代文化の展開 1 推古朝の政治と飛鳥文化 2 律令国家の成立と白鳳文化 3 奈良時代の政治と天平文化 4 平安初期の政治と文化	1. 推古朝から律令体制の成立、奈良時代・平安時代初期に至る政治の動向や統治体制の整備を、遣隋使・遣唐使などがもたらした文物・制度の影響にも着目してとらえさせる。 2. 古代文化はその国際性ととも、古代国家の展開と深くかかわっていたことを考察させる。	・隋唐及び朝鮮・渤海など東アジア諸国については、世界史との連携をはかる。 ・仏教については倫理との連携をはかる。 ・古代文学については古典との関連をはかる。	・古代国家の成立や古代文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・古代国家の成立や古代文化の特色から課題を見出し、東アジア世界との交流と関連づけて多面的・多角的に考察している。	・古代国家の成立や古代文化の特色に関する遺物、文献などの資料を活用し、追究・考察した過程や結果を適切に表現している。	・古代国家の成立や文化の特色についての基本的な事柄を東アジア世界との交流と関連づけて理解し、その知識を身につけている。		

学期	月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	備考(学習活動の特記事項, 他教科・総合的な学習時間・特別活動等との関連等)	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用 of 技能・表現	知識・理解
第1学期	6	[4] 貴族政治と国風文化の発達 1 貴族社会と摂関政治 2 国風文化 3 荘園と武士団の成長 4 院政と平氏の台頭	1. 東アジア世界との関係の変化, 公領の変質や荘園の拡大, 武士の台頭などに着目して, 律令制の変質と摂関政治や院政の展開を理解させる。 2. 遣唐使停止や地方の動向に着目し, 大陸文化を消化し日本の風土や生活に適応した新しい貴族文化が進展していったことを考察させる。	・説話集や絵巻物を利用して武士や庶民の姿が見え始めたことに気づかせる。 ・貴族の暮らしについては, 「日本史のライブラリー」p. 72 の特集を活用し, 具体的に考察させる。	第1学期中間考查	・古代国家の推移と国風文化の展開および中世社会の萌芽に対する関心と課題意識を高め, 意欲的に追究している。	・古代国家の推移と国風文化の展開から課題を見出し, 東アジア世界との関係の変化, 荘園公領制の形成や武士の台頭など地方の動向と関連づけて多面的・多角的に考察している。	・古代国家の推移と国風文化の展開に関する文献・絵画などの資料の活用を通して, 歴史的な事象を追究する方法を身につけるとともに, 追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・古代国家の推移と国風文化の展開および中世社会の萌芽についての基本的な事柄を東アジア世界との関係の変化と関連づけて理解し, その知識を身につけている。
	7	第2章 武家社会の形成と中世文化 [1] 武家社会の形成と文化の新気運 1 鎌倉幕府の成立 2 執権政治の展開 3 元寇と御家人社会の変質 4 鎌倉文化	1. 実質的な土地支配権がしだいに地頭に握られていったこと, 鎌倉幕府が二元的支配からしだいに公家政権より優位に立つようになったことに着目して, 東国の地方政権から全国的な政権に成長していったことを理解させる。 2. 宋銭流入による貨幣経済の進展, 禅宗の伝来と生活文化の変化, 蒙古襲来の影響など東アジア世界とのかわりに留意し, 政治, 経済, 文化の特色を理解させる。 3. 武家社会の成立や庶民の経済活動の活発化などの社会変化を背景にして, 文化に新しい気運が生まれたことを理解させる。	・世界史で学ぶ宋・元の歴史の内容をふまえる。 ・武士や庶民を題材にした文学, 絵巻物や力強く写実的な彫刻の写真などを利用して文化の新気運に気づかせる。	第1学期期末考查	・武家政権の形成過程と鎌倉新仏教などの文化の新気運に対する関心と課題意識を高め, 意欲的に追究している。	・武家政権の形成過程, 鎌倉新仏教などの文化の新気運, 貨幣経済の進展などから課題を見出し, 武士の土地支配と公武関係, 宋・元との関係と関連づけて多面的・多角的に考察している。	・武家政権の形成過程, 鎌倉新仏教などの文化の新気運, 経済の進展に関する文献・絵画などの資料を通して, 歴史的な事象を追究する方法を身につけるとともに, 追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・武家政権の形成過程, 鎌倉新仏教などの文化の新気運, 貨幣経済の進展などについての基本的な事柄を宋・元との関係と関連づけて理解し, その知識を身につけている。
		[2] 下剋上の社会と庶民文化の萌芽 1 室町幕府の成立 2 倭寇と東アジアの交易 3 下剋上の社会と戦国大名 4 室町文化	1. 室町幕府の成立, 南北朝の動乱から戦国時代への歴史の流れを, 東アジア世界との交流や日本の諸地域の動向など, 世界史的視点や地域的視点などからとらえさせる。 2. 庶民の台頭, 産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開を幅広くとらえさせるとともに, 庶民の活動が従来の社会秩序を変える原動力になり得たことに気づかせる。 3. 武家文化と公家文化の融合や庶民文化の萌芽など文化の動向を, 武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流, 庶民の台頭など時代背景をおさえて理解させる。	・アイヌとの交流や琉球の中継貿易が果たした役割にも留意する。 ・琉球については, 「日本史のライブラリー」p. 105 の特集を参考に, 多面的に考察させる。	第1学期期末考查	・産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開と, 武家文化と公家文化の関わりや庶民文化の萌芽など文化の動向に対する関心と課題意識を高め, 意欲的に追究している。	・産業経済の発展や下剋上と, 武家文化と公家文化の関わりや庶民文化の萌芽など文化の動向から課題を見出し, 東アジア世界との交流, 庶民の台頭と関連づけて多面的・多角的に考察している。	・産業経済の発展や下剋上と, 武家文化・公家文化・庶民文化などに関する文献などの資料を通して, 歴史的な事象を追究する方法を身につけるとともに, 追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・産業経済の発展や下剋上と, 武家文化・公家文化・庶民文化などについての基本的な事項を東アジア世界との交流と関連づけて理解し, その知識を身につけている。
【課題・提出物等】 レポート, ワークシート, 課題プリントなどを提出									
【第1学期の評価方法】 考查評定(70%), 課題プリント, レポート(20%), ミニテスト(10%)への取り組み状況などで総合的に評価する。									
第2学期	9	第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 [1] ヨーロッパ文化との接触と国内統一 1 ヨーロッパ人の渡来 2 織豊政権と桃山文化	1. 織豊政権の統一政策を幕藩体制へのつながりという観点から取り上げるとともに, 大航海時代と言われる世界史的背景にも着目して理解させる。 2. 桃山文化が新興の大名や都市の豪商の精神を反映していることなど, 時代的背景と関連させて, その特色について理解させる。	・ヨーロッパとの接触については, 「日本史のライブラリー」p. 119 の地図を参考に, 世界史的視野を重視して考察させる。	第2学期中間考查	・織豊政権の特質に対する関心と課題意識を高め, 意欲的に追究している。	・織豊政権の特質から課題を見出し, ヨーロッパ世界との接触と関連づけて多面的・多角的に考察している。	・織豊政権の特質に関する文献・絵画・地図などの資料の活用を通して, 歴史的な事象を追究する方法を身につけるとともに, 追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・織豊政権の特質についての基本的な事柄をヨーロッパ世界との接触と関連づけて理解し, その知識を身につけている。

学期	月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	備考(学習活動の特記事項, 他教科・総合的な学習時間・特別活動等との関連等)	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・技能・表現	知識・理解
第2学期	9	[2]幕藩体制の成立 1 江戸幕府と諸藩 2 身分制度の確立 3 鎖国	1. 幕府と藩, 農村・農民支配の特色, 経済的基盤, 封建的身分制度など幕藩体制の特色を, 政治的・社会的な背景や役割と関連させて理解させる。 2. 鎖国政策については貿易統制, 禁教という側面とともに, オランダ・中国・朝鮮・アイヌとの交易にも留意し, 鎖国が社会や文化に及ぼした影響と歴史的意義を理解させる。	・鎖国の国際環境については, 世界史との連携をはかる。	第2学期中間考查	・幕藩体制の成立に対する関心と課題意識を高め, 意欲的に追究している。	・幕藩体制の成立に課題を見出し, 鎖国や支配体制と身分制度を関連づけて多面的・多角的に考察している。	・幕藩体制の成立に関する文献などの資料の活用を通して, 歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに, 追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・幕藩体制の成立についての基本的な事柄を鎖国などの対外関係と関連づけて理解し, その知識を身につけている。
	10	[3]近世社会の発達と町人文化 1 幕府政治の進展 2 経済と産業の発達 3 学問の興隆と元禄文化	1. 文治政治に転換し安定した幕藩体制下での農業・商工業・その他の産業が, 交通の発達や貨幣・金融制度の確立などと相互に関連して発展していったことを考察させる。 2. 町人文化は全国的商業活動の拡大による都市発展, 町人の経済的繁栄を背景に, 庶民の生活意識を反映した文化であったことを理解させる。	・近世前期の思想については, 倫理との連携をはかる。 ・元禄文学については, 古典との連携をはかる。		・幕藩体制下の産業の発展や元禄文化に対する関心と課題意識を高め, 意欲的に追究している。	・幕藩体制下の産業の発展や元禄文化から課題を見出し, 経済機構や交通・技術の発展, 都市の繁栄と関連づけて多面的・多角的に考察している。	・幕藩体制下の産業の発展や元禄文化に関する諸資料や地域の文化財の活用を通して, 歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに, 追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・幕藩体制下の産業の発展や元禄文化についての基本的な事柄を理解し, その知識を身につけている。
	11	[4]近世社会の動揺と庶民文化の発達 1 幕藩体制の動揺と対外問題の発生 2 新しい学問の形成と化政文化 3 幕藩体制の危機	1. 商品経済の発展, 農民層の分解など, 社会構造の変化による幕藩体制動揺の過程と, 社会・経済の発展の中で近代を準備する新しい要素の形成について理解させる。 2. 洋学・国学などの新たな学問・思想の発展や江戸を中心とした町人文化の形成などを, 時代的背景に留意させながら考察させる。	・海防問題の国際環境については, 世界史との連携をはかる。 ・近世後期の思想については, 倫理との連携をはかる。 ・化政期の文学については, 古典との連携をはかる。	・幕藩体制の動揺と近代化の基盤や化政文化に対する関心と課題意識を高め, 意欲的に追究している。	・幕藩体制の動揺と近代化の基盤や化政文化から課題を見出し, 欧米諸国のアジア進出や学問・思想・産業の新たな展開と関連づけて多面的・多角的に考察している。	・幕藩体制の動揺と近代化の基盤や化政文化に関する諸資料を通して, 歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに, 追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・幕藩体制の動揺と近代化の基盤や化政文化についての基本的な事柄を欧米諸国のアジアへの進出と関連づけて理解し, その知識を身につけている。	
		第4章 近代国家の形成と国民文化の発展 [1] 開国から明治維新へ 1 開国 2 幕府の滅亡 3 近代国家の成立 4 富国強兵への道 5 殖産興業と文明開化 6 明治初期の国際情勢	1. 開国によって国際社会に組み込まれる中で, 尊王攘夷運動や倒幕運動を経て明治維新に至る過程について, 経済や社会と関連させてとらえさせ, その意義を考察させる。 2. 諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策について, 欧米列強との関わりに着目して政治, 外交, 経済など様々な面から考察させる。 3. 欧米文化が導入され, 伝統文化を否定する動きを伴いつつ, 文明開化が明治の文化形成に寄与したことに着目させる。	・幕末の国際関係については, 世界史との連携をはかる。	・開国から中央集権体制の推進など近代化の過程に対する関心と課題意識を高め, 意欲的に追究している。	・開国から中央集権体制の推進など近代化の過程から課題を見出し, 国際環境の変化と関連づけて多面的・多角的に考察するとともに, 国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	・開国から中央集権体制の推進など近代化の過程に関する文献などの諸資料を通して, 歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに, 追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・開国から中央集権体制の推進など近代化の過程に関する基本的な事柄を欧米の文化や国際環境の変化と関連づけて総合的に理解し, その知識を身につけている。	
		[2]立憲政治の形成と国民文化 1 専制政府への批判 2 立憲政治の成立 3 新しい生活と文化	1. 国会開設の運動など, 国民の間に政治的関心が高まるなかで立憲体制が成立し, 近代国家の基盤が形成された過程を考察させる。 2. 国家的課題であった条約改正の経過とその意義について考察させる。	・維新期の対外関係については, 世界史との連携をはかる。	・立憲体制の確立と条約改正などに対する関心と課題意識を高め, 意欲的に追究している。	・立憲体制の確立と条約改正などから課題を見出し, 国際環境の変化と関連づけて多面的・多角的に考察するとともに, 国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	・立憲体制の確立と条約改正などの諸資料の活用を通して, 歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに, 追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・立憲体制の確立と条約改正などに関する基本的な事柄を国際環境の変化と関連づけて総合的に理解し, その知識を身につけている。	

学期	月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	備考(学習活動の特 記事項, 他教科・総 合的な学習時間・特 別活動等との関連 等)	考 査 範 囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態 度	思考・判断	資料活用の技 能・表現	知識・理解
11	12	[3]日本の近代化と東 アジア 1 日清戦争と資本主 義の成立 2 日露戦争と資本主 義の発達 3 近代文化の発達	1. 日清・日露戦争を清国の朝鮮政策 やロシアの極東政策と日本の大陸 政策など, 世界史的視野から考察さ せる。 2. 我が国が韓国併合や満州への勢力 拡張などを通じて植民地支配を進 めたことを考察させるとともに, 国 民の対外意識の変化やアジア近隣 諸国の受け止め方について考えさ せる。 3. 資本主義国家としての基礎確立の 過程をとらえさせ, 社会問題, 労働 問題が発生して社会運動が起こっ たことにも着目させる。 4. 伝統文化の上に欧米文化を取り入 れ国民的性格をもつ近代文化が形 成されたことを, 経済の発展や政 治, 外交などに関連させて考察させ る。	・帝国主義について は, 世界史との連携 をはかる。 ・明治の思想につい ては, 倫理との連携 をはかる。 ・明治文学について は, 現代文との連携 をはかる。	第2 学 期 末 考 査	・日清・日露戦 争と資本主義 経済の形成, 近 代文化の特色 に対する関心 と課題意識を 高め, 意欲的に 追究している。	・日清・日露戦 争と資本主義 経済の形成, 近 代文化の特色 から課題を見 出し, 近隣諸国 と欧米諸国と の関係の推移 と関連づけて 多面的・多角的 に考察すると ともに, 国際社 会の変化を踏 まえ公正に判 断している。	・日清・日露戦 争と資本主義 経済の形成, 近 代文化の特色 に関する諸資 料の活用を通 して, 歴史的事 象を追究する 方法を身につ けるとともに, 追究し考察し た過程や結果 を適切に表現 している。	・日清・日露戦 争と資本主義 経済の形成, 近 代文化の特色 に関する基本 的な事柄を国 際環境の変化 や国民生活の 向上と社会問 題の発生と関 連づけて総合 的に理解し, そ の知識を身に つけている。
		[4]デモクラシーと市 民文化 1 第一次世界大戦と 日本 2 新たな国際秩序と 政党政治の実現 3 大正文化と市民生 活	1. 第一次世界大戦とその前後の国際 社会の動向に留意して, 我が国の対 外政策や大戦が国内の経済・社会に 及ぼした影響について考察させる。 2. 大衆社会成立の中での政党政治の 発展を, 政治や社会運動の動向に留 意して考察させる。 3. 労働者の増加や高等教育の拡大に よる大衆社会の成立に着目し, 形成 された大衆文化の特色について考 察させる。	・第一次世界大戦及 びワシントン体制 については, 世界史 との連携をはかる。 ・大正の思想につい ては, 倫理との連携 をはかる。 ・大正文学について は, 現代文との連携 をはかる。		・第一次世界大 戦と大正期の 政治・文化など に対する関心 と課題意識を 高め, 意欲的に 追究している。	・第一次世界大 戦と大正期の 政治・文化など の動向から課 題を見出し, 世 界情勢と関連 づけて多面 的・多角的に考 察するととも に, 国際社会の 変化を踏まえ 公正に判断し ている。	・第一次世界大 戦と大正期の 政治・文化など の動向に関する 諸資料の活用 を通して, 歴 史的な事象を追 究する方法を 身につけると ともに, 追究し 考察した過程 や結果を適切 に表現してい る。	・第一次世界大 戦と大正期の 政治・文化など の動向に関する 基本的な事柄 と関連づけて 総合的に理解 し, その知識を 身につけてい る。
		[5]激動する世界と日 本 1 揺れ動く経済と中国 侵略の本格化 2 日中戦争と新体制運 動 3 太平洋戦争	1. 国際経済, 全体主義の台頭, 中国 の民族運動など世界情勢と, 軍部の 政治的進出や経済恐慌など国内政 治と経済の動揺に着目して, 中国と の戦争とその長期化及び国際関係 の変化, 太平洋戦争への突入に至る 過程を考察させる。 2. 戦時体制下の国内経済と国民生活 の変化, 学問・思想や教育に対する 統制など, 全体主義的国家体制の進 展と国民生活について考察させる。	・多くの国々, とり わけアジアの人々 に対して多大の損 失を与えた事実 に留意する。 ・ファシズム及び第 二次世界大戦につ いては, 世界史との 連携をはかる。		・対外政策の推 移と戦時体制 の強化など第 二次世界大戦 と日本の関わり に対する関心 を高め, 国際 社会や国内の 政治・経済の動 向, 近隣諸国と の関係を意欲 的に追究して いる。	・対外政策の推 移と戦時体制 の強化など第 二次世界大戦 と日本の関わり から課題を見 出し, 国際社 会や国内の政 治・経済の動 向, 近隣諸国と の関係と関連 づけて多面 的・多角的に考 察するととも に, 国際社会の 変化を踏まえ 公正に判断し ている。	・対外政策の推 移と戦時体制 の強化など第 二次世界大戦 と日本の関わり に関する諸 資料や聞き取 りなどを通し て, 歴史的な事 象を追究する 方法を身につ けるとともに, 追 究し考察した 過程や結果を 適切に表現し ている。	・対外政策の推 移と戦時体制 の強化など第 二次世界大戦 と日本の関わり に関する基 本的な事柄を 国際社会の動 向, 近隣諸国と の関係と関連 づけて総合的 に理解し, その 知識を身に つけている。
【課題・提出物等】 1 学期に準ずる									
【第2学期の評価方法】 1 学期に準ずる									

学期	月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	備考(学習活動の特 記事項, 他教科・総 合的な学習時間・特 別活動等との関連 等)	考 査 範 囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態 度	思考・判断	資料活用の技 能・表現	知識・理解
第3学期	1	第5章 現代の世界と日本 [1] 占領と国内改革 1 占領と日本国憲法の成立 2 冷戦の開始と経済復興	1. 対日占領政策及び戦後の民主化を進める諸改革の内容と, 新しい憲法が制定される経過を考察させる。 2. 占領政策は, 中華人民共和国の成立や朝鮮戦争の勃発に見られる東アジアの情勢の変化により, アメリカの対世界政策の転換と結び付きながら推移することに注目させる。	・戦後の国民生活については, 「日本史のライブラリー」p. 241 などの活用や祖父母への聞き取りなども実施させ, 具体的に追究させる。 ・戦後の政治過程及び経済変動については, 現代社会, 政治・経済との連携をはかる。	学 年 末 考 査	・占領政策と戦後改革や新憲法の成立などに対する関心を高め, 意欲的に追究し, 国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	・占領政策と戦後改革や新憲法の成立などから課題を見出し, 冷戦体制下の国際情勢と関連づけて多面的・多角的に考察するとともに, 国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	・占領政策と戦後改革や新憲法の成立などに関する諸資料を通して, 歴史的な事象を追究する方法を身につけるとともに, 追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・占領政策と戦後改革や新憲法の成立などについての基本的な事柄を第二次世界大戦後の冷戦体制下の国際関係と関連づけて総合的に理解し, その知識を身につけている。
		[2] 国際社会への復帰と高度経済成長 1 国際社会への復帰と対米協調 2 経済の高度成長	1. サンフランシスコ平和条約の調印と日米安全保障条約の締結に着目し, 占領終結と独立, 新しい外交関係と安保闘争など, 当時の国際情勢と国内政局について考察させる。 2. 高度成長とそれに伴う新しい外交関係, 国民生活の変化と経済発展に伴って表面化した社会問題について考察させる。	・冷戦については, 世界史との連携をはかる。 ・高度経済成長については, 現代社会, 政治・経済との連携をはかる。		・平和条約の調印や日米安保条約の締結, 高度経済成長などから課題を見出し, 生活意識や価値観の変化と関連づけて多面的・多角的に考察するとともに, 国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	・平和条約の調印や日米安保条約の締結, 高度経済成長などに関する諸資料の活用を通して, 歴史的な事象を追究する方法を身につけるとともに, 追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・平和条約の調印や日米安保条約の締結, 高度経済成長などについての基本的な事柄を世界の動向と関連づけて総合的に理解し, その知識を身につけている。	
	[3] 石油危機と低成長の時代 1 激動する国際情勢と日本 2 安定成長と保守回帰	1. ドル危機・石油危機など世界経済の変化や国際政治の動向を踏まえながら, 高度成長の終焉と政局の動向を理解させる。 2. 安定成長下の日本経済と貿易摩擦, 国民意識の変化と政局の動向を考察させる。	・ドル危機・石油危機などについては, 現代社会, 政治・経済との連携をはかる。	・高度経済成長から安定成長への移行に関する関心と課題意識を高め, 意欲的に追究し, 国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。		・高度経済成長から安定成長への移行から課題を見出し, 生活意識や価値観の変化と関連づけて多面的・多角的に考察するとともに, 国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	・高度経済成長から安定成長への移行に関する諸資料の活用を通して, 歴史的な事象を追究する方法を身につけるとともに, 追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・高度経済成長から安定成長への移行についての基本的な事柄を世界の動向と関連づけて総合的に理解し, その知識を身につけている。	
	[4] 新しい国際秩序と日本の課題 1 激変する世界と日本 2 現在の日本と世界	1. 冷戦の終結と激動する国際情勢, 国際的経済秩序の転換の中での日本の政治・経済のあり方を考えさせる。 2. 国内政治の課題とともに, 地球的規模の課題と日本の役割について考えさせる。	・現代社会, 政治・経済での学習と関連させて考えさせる。 ・冷戦の終結については, 世界史との連携をはかる。	・現代世界動向と日本の課題や役割に対する関心を高め, 意欲的に追究し, 国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。		・現代世界動向と日本の課題や役割から課題を見出し, 世界の中の日本という立場から多面的・多角的に考察するとともに, 国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	・現代世界動向と日本の課題や役割に関する諸資料の活用を通して, 歴史的な事象を追究する方法を身につけて, 追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・現代世界動向と日本の課題や役割についての基本的な事柄を世界の動向と関連づけて総合的に理解し, その知識を身につけている。	
【課題・提出物等】 1 学期に準ずる									
【第3学期の評価方法】 1 学期に準ずる									
【年間の学習状況の評価方法】 各学期の定期考査(70%)、平常加点(授業態度・課題・提出物)30%の総合点で行う。									